

1 日 時 〇年5月〇日(〇) 第5校時

2 学 年 第1学年1組(男子10名 女子10名 計20名)

3 題材名「私たちの衣生活ー快適で豊かな衣生活について考えようー」 **題材名の工夫**

4 題材について

題材観

私たちの生活は物質的に豊かになり、さまざまな衣服が店頭に並び、手軽に購入できるようになっている。そのような中で中学生が衣服を選ぶとき、流行やデザイン、他の人に映る自分の姿を意識して購入するケースが多く見られる。また、毎日衣服を着用し快適に過ごすためには、洗濯やボタン付けなどの手入れや補修が必要になってくるが、ライフスタイルの変化による家事時間の短縮、機械化で、スイッチ一つで洗濯ができたり、形状記憶タイプの衣服の登場でアイロンをかけたりすることも少なくなり、衣服の手入れや補修については親任せになっている傾向がある。こうした状況の中で、日常着の手入れに関する基礎的な技能や知識を身に付けさせ、衣服材料や汚れに応じた手入れと適切な補修を自らの手でできるようになることは、健康で快適な衣生活を主体的に送っていく上で意義深いことだと考える。

本題材は、学習指導要領に示されている内容B「(4) 衣服の選択と手入れ」及び「(5)生活を豊かにするための布を用いた製作」との関連を図って総合的に学習できるように計画した題材である。製作物をエプロンとし、補修やアイロンの取扱いについても学習できるように設定した。また、次題材のB(3)日常食の調理と地域の食文化の調理実習で、製作したエプロンを活用させることを計画している。

※事実を理解することは大事。それを踏まえ自分はどうか認識していくか?を考えることで自分のライフスタイルになっていく。往還が大事

※知識の認識と実態をどう教師が捉えるか?「補修の技術をさせる」を子供の実態に即したらどういう流れが良いか。「自分らしく(製作する、管理する)に修繕が必要になってくる→科学的・客観的+ 自分のやり方(ライフスタイルをつくる)まで。2つをマッチングさせる先生の思考「教師と学指のあいだに隙間をもつ」

生徒観

生徒はこれまでに、小学校家庭科でボタン付けやなみ縫いの仕方、ナップザック製作の学習を行い、中学校では、衣服のはたらきや衣服の選択の仕方について学習している。衣服の選択の学習では、購入の際に重要視するものとして、デザインや価格、サイズを上位に上げる生徒が多く、手入れのことを考えて購入した経験をもつ生徒はわずかであった。

事前調査を行ったところ、半数の生徒が、自らで時々洗濯機を使って洗濯をしたりアイロンかけをしたりしていることが分かった。また、多くの生徒は、ボタン付けやほころび直しは「できない」と思っていることが分かった。さらに、生徒全員が「今よりもっと衣服の手入れができるようになりたい」と考えているものの、「衣服の手入れをする時に困ること」として、「自分に技術が十分身に付いていない」「方法がよく分からない」「する機会がない」など、知識や技能が十分身に付いていない様子が見られた。

指導観

指導に当たっては、生徒に自分の生活を振り返らせながら、課題意識をもたせる必要があり、身近な生活の中から、生徒自ら課題を発見し、解決を図る学習指導の工夫をすることが大切であると考えた。そこで、本題材では、一般的な衣服を取り上げるのではなく、毎日生徒が着用している 制服と学校の体操着を取り上げ、着用後に行う洗濯やアイロン等の学習へとつなげるにより、衣生活における基礎的・基本的な知識と技能を身に付けさせることにした。また、衣服の手入れと補修 については、家庭で繰り返し実践する場を設けて、知識と技能の定着を図っていきたい。

5 題材の目標

- 衣服と社会とのかかわりを考え、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫することができる。
- 日常着の計画的な活用を考え、適切な選択ができる。また、衣服材料に応じた日常着の適切な手入れと補修ができる。
- 布を用いた物の製作を通して、生活

6 題材の評価規準

知識・技能	
・既制服の表示を調べ、適した衣服の選択ができる。 ・衣服材料や汚れに応じた日常着の洗濯ができる。 ・補修の目的と布地に適した方法で衣服の補修をしている。 ・手縫いやミシンなどの基礎的・基本的な知識と技能を活用して生活を豊かにする物を製作している。 ・衣服の社会生活上の機能について理解している。 ・自分の衣服の活用状況を考えて衣服の計画的な活用の必要性を理解している。 ・既制服の表示と選択に当たっての留意事項について理解している。 ・綿・毛・ポリエステル等の手入れにかかわる性質について理解している。 ・洗濯の方法と特徴について理解している。	・ 本時だけではなく題材計画を見る。 - 生徒の自分事になっているか？ ・ 題材計画の建付けは課題解決のプロセスになっているか？ - 各論になっているのでは？ ・ 題材を貫く問いをどうとらえるか？ - より良い生活とはどういうもの？自立するとは？ - から各論に入る。導入が大事。 - ンケートを生徒たちに共有するとよい。 - 導入へ。1 時間目の扱いが大事。 ・ 前校種で何を学んできているかを捉えて計画を検討する。 ・ 衣服管理に失敗してしずかちゃんを悲しませたのび太はどうす ればよかったのか？という問い ・ 教師が付けさせたい力 は何か。 1 時間目 知識から入るのではなく自分らしい着方って何？ - い つか悩む日が来るよ？から入る。 ・ 何を着たらいいの？と悩む高校生が多い。

7 指導と評価の計画（全17時間）

次	学習内容(時数)	評価				
		知技	思判表	主	評価規準	評価方法
1	衣服の働きを考えよう(1時間)	◎	○		・衣服の社会生活上の機能について理解している。 ・着用目的に応じた着方の工夫が必要であることに気づき、考えている。	観察 ワークシート
2	自分らしい着方を考えよう(1時間)		◎	○	・衣服の種類や着方が人に与える印象の違いに関心を持ち、進んで学習活動に取り組もうとしている。 ・個性を生かした着方を考え、目的に応じた着装の工夫をしている。	観察 ワークシート
3	衣服の計画的な活用を考えよう(1時間)	◎		○	・日常着の計画的な活用に関心を持ち、進んで学習活動に取り組もうとしている。 ・自分の衣服の活用状況を考え、服の計画的な活用の必要性を理解している。	観察 ワークシート
4	衣服を選ぼう(2時間)	◎		○	・既制服の選び方について、進んで自分の考えを発表し、他の生徒の意見を聞こうとしている。 ・既制服を選ぶ視点を理解している。	観察 ワークシート
5 本 時	既制服の表示を調べよう(1時間) →衣服を選ぼうへ	◎	○		・取扱い絵表示の意味を理解している。 ・取扱い絵表示から、日常着に適した衣服の選択をしている。	観察 ワークシート
6	日常着の手入れの仕方を考えよう(1時間)	◎		○	・衣服の手入れに関心をもって、意欲的に学習活動に取り組もうとしている。 ・手入れの必要性を理解している。	観察
7	衣服材料に応じた手入れを考えよう(1時間)	○ ○ ◎			・手入れにかかわる繊維の基本的な性質を理解している。 ・組成表示の意味を理解している。 ・衣服材料の違いに応じた手入れの仕方を理解している。	観察 ワークシート
8	洗濯をしよう(1時間)	○ ◎			・洗濯機の使い方と特徴を理解している。 ・洗濯機を適切に使用して、洗濯している。	観察 ワークシート
9	エプロン製作の計画を立てよう(1時間)	○	◎		・サイズ表示の意味とサイズの計測の仕方を理解している。 ・生活を豊かにするための工夫をしている。	観察 ワークシート

10	エプロンの製作しよう(7時間)	○ ◎			・手縫いやミシンなどの基礎的・基本的な知識と技術を活用してエプロンを製作している。 ・まつり縫いができ、スナップボタンを付けることができる。	
----	-----------------	--------	--	--	---	--

8 準備物

- ・教科書〔東京書籍〕
- ・ワークシート
- ・掲示物

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・取扱い絵表示の意味を理解し、日常着に適した衣服を選ぶことができる。

(2) 本時の観点別評価規準

- ・取扱い絵表示の意味を理解している。
- ・取扱い絵表示から、日常着に適した衣服の選択をしている。

(3) 学習の展開

	学習活動	◇指導上の留意点 (◆「努力を要する」状態と判断される生徒への指導の手立て)	評価規準	評価方法
導入	1 前時を想起する。	◇前時の学習から表示を理解することの必要性を感じさせる。 ◇表示の意味を正しく理解することで、適した衣服の手入れをすることができることを気付かせる。		
	2 本時の内容を確認する。	取扱い絵表示の意味を理解し、日常着の適した衣服を選ぼう。		
展開	3 予想を立てる。 ・各グループで制服又は体操着に付いている取扱い絵表示を調べ、予想される表示の意味を発表する。 4 調べて、確かめる。 ・教科書で確認する。 ・取扱い絵表示の見方についてまとめる。	◇取扱い絵表示の概要を説明した後に個人で予想させ、グループ内(3~4人)で予想を確認させるようにする。 ◇1人1個ずつ担当の表示を決め、予想した答えを黒板に記入させる。 ◇理由を付けて、説明させる。 ◆担当した表示の意味を確認し、誤りがあれば、修正した部分分かるように訂正させる。 ◇日常着に適した服について確認しておく。(洗濯機で洗濯できて、手間のかから	・取扱い絵表示の意味を理解している。(知識・理解) ・取扱い絵表示から、日常着に適した衣服の選択をしてい	観察 ワークシート 観察 ワークシート

絵表示はなぜあるの？

	5 活用する。 ・取扱い絵表示から日常着に適した服を選ぶ。(個人) ・答えを確認する。(グループ) ・発表する。	ないもの等) いろいろあるはず(もったいない) 自分のお気に入り。どういう手当が必要なのだろうか？ 自分が気に入る服で洗いたいもの。ポロシャツを選んで洗面器で洗った。表示をみて。一連のことをして感じたことが多くあった。今の状態で体験できることをしてみる。お気に入り。	る。(生活の技能)	
まとめ	6 本時のまとめと次時の確認をする。 ・まとめノートに分かったことを書く。 ・次時の予告を聞く。	◇3文以上で書かせる。 ◇数名に発表させ、みんなで認め合う機会をもつ。		

①どのような「本質的な問い」が適切か。

・①と③が関連している。自分事になるにはどうすればいいか？を常に考えている。

②どうすれば「生徒を自由にする(真に主体的にする)」指導となるか。

・キットでアレンジできる子はする。衣生活で生徒の自由とは・・・？

③日常生活への還元と評価をどう意図し、設定するか。

その他

- ・子供たちの気づきを聞く 既知のことから始まったらどうか
- ・衣の導入部分 一般的なもの。5月に行われたときに状況とはギャップがある。
学校によっては体操着で過ごす文化がある学校が多い。中学生になると自分で服を選ぶことが少ない。
- ・体操着をアイロンをかける・・・本当に適時性があるものか
- ・2年生だと2/3くらいが私服は自分で選ぶようになる。
- ・自分の使っていた体操服と今の生徒が使っていた体操服の違い 表示
自分の服の表示の写メで議論する。写メしてくる生徒が少なく授業にしにくかった。
急遽指導案を変えてこちらから提示して実施。
- ・宿題やっている生徒いたクラスでは、教員のお題では生徒の興味がなくなって成立しなかった
- ・流れを変えてしまうと生徒の集中力が欠けてしまう。
- ・衣服をまとっている に関心をもたせる 自分たちで調べて面白さを喚起する。